

生物多様性はままつ戦略の進捗状況について

環境政策課

1. 生物多様性はままつ戦略の概要

浜松市における生物多様性の保全及び持続可能な利用に向けた取組みを総合的・体系的に推進し、持続可能な都市の構築を目指す基本的かつ総合的な計画として、平成 25 年 3 月に「生物多様性はままつ戦略」を策定しました。平成 29 年度に地域内外の状況を踏まえた見直しを行い、平成 30 年度より「生物多様性はままつ戦略 2018」として、目指すべき将来像の実現に向けた 3 つの基本方針を掲げ、生物多様性保全に取り組んでいます。

2. 生物多様性はままつ戦略の達成度

生物多様性はままつ戦略 2018 では、令和 4 年を目標年度に基本方針に沿った 7 つの指標により進捗を管理しています。新型コロナウイルスの影響もあり、7 つの指標のうち目標を達成したのは 2 指標に留まりました。すべての指標で目標が達成できるよう、業務内容の見直し、更なる市民への広報、周知に取り組んでいく必要があります。

基本方針 1 多様な生きもののすみかをしっかりと守っていきます

取組み	指標	目標値	令和2年度実績	備考	進捗状況 ^{※3}
①生きものの生息・生育場所の保全	ヤリタナゴの生息数 (基準値:64 個体 【成魚 5 当歳魚 59】)	維持、 又は増加 (令和 4 年度)	46 個体 【成魚 17 当歳魚 29】	基準値は平成 28 年度の実績	×
②持続可能な農林水産業の促進と良好な生態系の保全	多面的機能支払交付金 ^{※1} の交付面積 (基準値: 農地維持:3,187ha 資源向上 共同 :2,718ha 長寿命化:4,247ha 計 10,152 ha)	10%増加 (令和 4 年度)	農地維持:3,133ha 資源向上 共同 :2,723ha 長寿命化:3,781ha 計:9,637 ha (5.1%減)	基準値は平成 28 年度の実績	×
③都市における緑地・水域の保全と連結・拡充	緑地保全面積 ^{※2} (基準値:1,373ha)	維持、 又は増加 (令和 4 年度)	緑地保全面積 1,373ha	基準値は平成 28 年度の実績	○

※1:農業・農村は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全などの多面的機能を有しており、この機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に対する支援に係る交付金を指す。

※2:特別緑地保全地区、風致地区、生産緑地地区、保存樹・保存樹林、市民の森の面積を合計したもの。

※3:進捗状況は、良好な項目を「○」、進捗が遅れている項目を「×」、未調査の項目を「-」とした。

「生きものの生息・生育場所の保全」では、北区の井伊谷小学校にて、地域の産業と自然の繋がりを学ぶ「田んぼでつながる人と自然」の ESD プログラムを実施し、静岡県指定希少野生動植物に指定されているヤリタナゴの保全について学びました。

ヤリタナゴが生息する水路の改修にあたり、生息環境を保全するために環境に配慮した構造としました。一部工事が完了したことから、ビオトープに保護していたヤリタナゴ 60 匹を放流し、ヤリタナゴに影響がないように未施工区間の工事に着手しました。

基本方針2 地域の生物多様性を守るための仕組みをつくります

取組み	指標	目標値	令和2年度実績	備考	進捗状況※
④様々な主体との円滑な連携、活動支援	浜松市生きものパートナーシップの協定を締結した件数 (基準値:0件)	3件締結 (令和4年度)	0件締結	合計1件	○
⑤生物多様性に関わる情報の収集・蓄積・活用	市民参加型調査に参加した人数 (基準値:0人/年)	300人/年	188人		×

「生物多様性に関わる情報の収集・蓄積・活用」では、市民参加型調査として、身近な生きもの「ツバメ類、カエル類、赤とんぼ類」の写真をスマートフォン等で撮影しメールで送信してもらいました。参加数を増やす取り組みとして、スマートフォンを持っていない方を対象に、アンケート形式による投稿ができるよう改善しました。昨年度と比較して参加数は大きく伸びましたが、目標には届きませんでした。さらに多くの市民が身近な自然に触れて、自然に興味をもっていただくよう、メールでの送信だけでなく、インターネット画面の入力フォームから手軽に写真の投稿ができるような方法を検討します。

基本方針3 豊かな自然と恵みを将来につなぐための人を増やしていきます

取組み	指標	目標値	令和2年度実績	備考	進捗状況※
⑥地域の生態系を支える人づくり	環境学習指導者による生物多様性保全学習会の開催・参加回数 (基準値:1,803回)	10%増加 (令和4年度)	開催・参加回数 1,404回 (22.1%減少)	基準値は平成28年度の実績	×
⑦生物多様性の大切さを理解し、行動する市民の育成	「生物多様性」の理解度 (基準値:30.4%) *言葉も意味も知っている	60%超 (令和4年度)	14.4% 市民アンケート調査結果	「言葉を知っている」を加えると42.3% 基準値は平成29年度の結果	×

「地域の生態系を支える人づくり」では、新型コロナウイルスの影響により、環境学習指導者を幼保園、学校、団体等に講師として派遣する移動環境教室の開催件数や各指導者の自主的な学習会の開催や環境活動への参加が減少したことにより、「環境学習指導者による生物多様性保全学習会の開催・参加回数」は基準値を下回りました。

「生物多様性の大切さを理解し、行動する市民の育成」では、生物多様性の理解度を指標としていますが、「言葉も意味も知っている」人の割合は目標に届かず、静岡県の実績20.0%よりも低い状況です。市のホームページ、SNSの活用に加え、戦略の指標としている生物多様性保全学習会の開催や市民参加型調査などの取組みの中で生物多様性保全の重要性を啓発し、理解度の向上に努めます。